



俳諧七部集
 亥乃日
 冬乃日
 以老日
 一

5
 4406
 1



~5
4406
1-7



龍虎集



45

1

曙々んとくくの内おきあひく
熱田おこし申おぬ渡一舟といひし
くがわゆいお并ねのこことんてい
いこのろかり重舟おねわはま
竹牆がとちりていよとらうわ
のまのまじと中母お出お

二月十八日



昭和九年
九月二日
晴末

荷兮

まろくお人おくくの内伊勢まじ

振らる中馬 ながく連 重五
山うす月一ぬ^五鼓^五く 雨桐
鎧なまけ火くわ^五也 孝風
志かゆまうくくゆハ^五高^五く 昌圭
くし^五わ^五の^五岩^五お^五く^五ん^五 執筆

須^ワ一寺^ニ行^ハ帷子脱^ク舞^ハ重五
 と^ナ坊^ノく^ハか^ハく^ハ笛^ヲを^テ戴^ク荷^兮
 文^王の^ハく^ハや^ハく^ハを^テ土^ヲは^ケ也^ト李^凡
 雨^ノの^ハ糸^ヲ如^ク角^ノの^ハが^ハさ^ハ草^一雨^相
 肌^ニこ^ト一^度の^ハ背^ヲを^テび^ク世^ノ荷^兮
 頃^城乳^トう^クと^ハ晨^明昌^圭
 旁^ニく^ハく^ハ鏡^ノ人^ノの^ハ鏡^ヲ移^ス雨^相
 口^ニく^ハく^ハ神^輿く^ハ里^{重五}

鳥^居い^ハ半^道真^の砂^ノ行^ク昌^圭
 花^ノ長^男の^ハ帛^ヲ鳥^ノわ^ガふ^ハ李^凡
 柳^ノ上^レの^ハ陽^ヲが^ハら^ハら^ハ鞠^ヲを^テ也^{重五}
 入^クの^ハ日^ト蝶^イや^ハり^荷兮
 入^クの^ハ心^ヲを^テ來^ルか^ハく^ハ心^ヲを^テ家^ノ連^一李^凡
 う^ハく^ハ懐^ク梓^一ま^ハく^ハ也^雨相
 黒^髪を^テた^ガあ^ハる^ハ切^ハ也^荷兮
 い^ハく^ハく^ハく^ハく^ハ五^位の^ハ針^ヲ也^昌圭

朝朗豆腐を薦よききけり	念佛におきたれり也	穂蓼生し蔵を信り候也	家名を掲り名よき月	傘の田代竹ふたの西の昏	釣鮭かふくおふかく
昌圭	重五	重五	荷兮	李虎	雨桐

才も兄とよきしり	いくまると花と竹たいてかく	記念よきよみ姫路の首細	せよあそびる局候よきよ	均瓶いしりを二人しり	かきよみあつたよきよ
虎	昌圭	重五	雨桐	昌圭	荷兮

ウ
望むこを慕ふこよりカ

野水

兼わは垣よよのふんをく

具兼

表町由ばるく之髪剃ん

越人

曉いりり車ゆくこと

荷号

鯨魚ゆく大津の深き入なり

具兼

何やうきりしお国入声

越人

臨衣あさぬむらと蚊たや

羽号

若くたにん百日のく

野水

里人子薄を籠と煉入る

越人

月がく之浪よ重石く揚

羽号

去うはらふ水入根よ流る鮎

野水

汎そよふ春清湯入る山

具兼

のくもや菟紫の袂伊勢女

越人

侍のえく由代女眉入る園

荷号

物も入軍の中は行りきよ

羽号

名もから栗とちく尸上ケ

野水

人年々念佛とありて惠養酒棚
 ともならず無我の心隙や
 のうらみあふるに拘杞人
 毛土の廿日とやと來多れ粉
 一和らけ宿る馬の寺おれ也
 こと魂もつるにあらま月
 陽炎入るものあつる夫婦
 とも西袖のい哥いそくく
 且葦 越人 荷兮 羽笠 四水 且葦 越人 荷兮

田を移くはむかしの生々り
 力のゆゆをばぶし中乃子
 健カキやと井のまゐれぬゆめ
 言びく乃のあつるのふく
 入つきまら廿九日乃月とむき
 とも乃にけりきり水ゆけ
 羽笠 四水 且葦 越人 荷兮 羽笠

カキ

二

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

三月廿六日且藁々田家子

とておかし 思水

蛙のこまもゆくと藤足は
額よりあつたふら雨乃そり 且藁
巖意ふ岩本乃真宿くは 越人
まどくく人をまふ馬乃子 荷兮
まぐのふ渡一の舟乃月歌り 冬文
芦乃穂を招く筆一の端 執筆

磬ぎな^ウ施飯鬼乃僧の集り

且藁

岩乃あひひより蔵にゆき里

里水

雨乃日も瓶焼やし煙より

荷兮

ひどあまきりもの旅乃一は子

越人

尋よる坊主の住まはん後牛也

里水

解^一もきりし枝むもつ松

冬文

今宵の更しとてやう也

月十九日 荷兮室より

頃ともの菊はむらさき白露ぞ

越人

秋のあゆまうは 頃

且藁

初^一は花色もけりて火をけぬ

冬文

別^一の月よとてあつらふ

荷兮

花あ花四の宮より唐輪して

且藁

まゆく道のまよひは

里水

あまきりし釣つるよも

荷兮

簀乃子 年とつる五月の中

越人

紹鷗の瓢フスをりりて木はく
 連舟のもつちをのぼりて
 瀧臺の葉押まてる音こ
 岩苔のりの巻よこぎも
 じりりキヌの糸をくちりの中
 庭二枚もむらさき色
 朝毎の露あはれに夢化
 暮うらを送るまぬく月

四水 冬文 楚人 且業 冬文 楚人 且業 甲水

舟のりき娘の舟は細入よ
 多羽の漂わらぶ多ひ
 ありあけどふれなふとふ
 けりく一泊舟の舟より
 糸まのり水汲を起し
 餅と食はくいよ君代
 山々花所のらけ花より
 けりけりキのき産

高字 冬文 甲水 楚人 且業 冬文 楚人 且業 荷分

追記
三月十九日舟泉亭
越人
山吹入あがらふ娘のこぼれ
蝶より好くすめり名く
さきさきや餅酒と人き雪
行幸乃くろよ洗ふ玉器
翔日を鷹より鍛治のいり
月夜を舟よりいりあき

追加

三月十九日舟泉亭

越人

山吹入あがらふ娘のこぼれ

蝶より好くすめり名く

さきさきや餅酒と人き雪

行幸乃くろよ洗ふ玉器

翔日を鷹より鍛治のいり

月夜を舟よりいりあき

舟泉

聴雪

蚤髭

荷今

執筆

昌隆のねんをぬ御代のま
 元日の本ねんをぬ御代のま
 初まの遠里牛れきふ日か
 へくし海をながらるる魚
 門をた芍薬園の雪さむし
 鯉の香水か入周く物白し
 舟のくの小ねをうけぬけり

春

昌隆のねんをぬ御代のま
 元日の本ねんをぬ御代のま
 初まの遠里牛れきふ日か
 へくし海をながらるる魚
 門をた芍薬園の雪さむし
 鯉の香水か入周く物白し
 舟のくの小ねをうけぬけり

利重

重五

昌圭

桐

舟泉

羽之

且景

晴乃人顔牡丹表よりきき
 縹々次元日里乃睡りん
 星々々々々々々々々々々々
 朝日二分柳乃動く白ひく
 芝揃とて二けく海乃こ瓢小
 のきききききききききき

杜園
 屏々
 香霞
 聴雪
 花兮
 同
 日暮

みくもま白雲いかに
 古池乃蛙色こむ乃き
 傘一張乃睡り胡蝶のふり
 山や花壇根く乃酒に
 花よよよよよよよよよよ
 春野一吟
 足跡は探を曲ふ菴二月
 林麻寺かへれぬりたきとるん

越人
 芭蕉
 重土
 亀洞
 越人
 杜園
 花

榎木を採乃運きぬ 荷子

餞別

藤乃花きく山さく別か 越人

山畑乃まつさく山つ知ぬ 重五

蚊ひのよあしき夜半ぞ 同

まのふ

夏

ふくみんさく山鳥尾ハ虫 九白

郭公さゆ乃焼くわる夜が 李凡

かつこま板金の首戸の二里塚 越人

うきうきまよかたれ木のついで 杜國

み竹乃さくさたあ雀ん 亀洞

傘子さきまぐ黄いから水 舟泉

武蔵坊をさくぬ

とまわさくゆさくの夜川 高露

あけぬのあさきさくゆのついで

鳥之さかしくりりる有 聽雪

老聃曰知足之足常一足

夕ふは難水あつとさ葉屋哉 契人

等一本の微雨こほきて鳴蚊か 柳雨

ほくまらるるさしふ中さる 塵文

萱草の池さるさ共のさ 荷兮

蓮池のよさささるさるん 全

曉のさほさるさる進まら卯 昌圭

夏川乃音よ宿うささ管路部 重五

躑躅品三男無安猶如火宅

とらさるさ

六月乃汗ぬささ居家甚うん 趣人

秋

宵戸の細さささささささ 且稟

負家のりささ

玉ささ桂ささささささ 楓人

丁まき〜まき〜一扉合る夜も
 芭蕉 雨桐
 きね〜人〜を〜ひる月又
 芭蕉
 山寺〜まは〜る月夜
 越人
 凡〜家〜西〜の月
 雲水
 八鴻〜屏〜の繪
 全
 具足〜顔〜月〜舟

侍志

良ぬ庭をたすき〜とせつらん
 荷兮

閑居増戀

秋ひ〜り琴柱ぶ〜る後
 荷兮
 朝鳥〜と〜人〜り
 舟泉

冬

馬をぬき牛ハク名め村をこれ
 杜園

芭蕉を宿〜ゆ〜

手おき〜教〜時〜蚊〜を〜忘〜
 如竹

雪の〜舞〜の〜ありん
 昌碧

馬をくわがひまのりぬ

芭蕉

行燈の燐もぐさききおれぬ

契人

芭蕉翁をかくりてくふ

三のぢぢ氷くまは名おん

杜園

隠きよかりては室を

あしきききききききききき

荷兮

貞享三丙
乃年仲秋下院



冬の日

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '冬の日'.

坐を長連のふくむるの成衣
とゆわく農あしに正先きり
徳はうたふと人あそ何を信
おほんちうむの〜相奇れあま
國〜〜〜〜

出まのり伝る

芭蕉

相白こが〜女身を行き〜伝る
中〜也と〜流〜の〜茶花 野水
有の〜水〜海を〜〜〜 荷兮
う〜られ〜を〜あ〜あ〜 重五
朝鮮のほ〜あ〜は〜あ〜 杜國
日〜ち〜わ〜に〜野〜茶を〜 正平

わのふおとを誘つてまのふあひまへく野水
髪もやとよみまのふ身のりて芭蕉
つりちのつゝと乳を志あめんそ又
こえぬこゝろすこゝとたかく荷
新法カゲホウのあつまひく火と矯く芭蕉
あるしそらんくちきえく虚家カライヤ 社団
田中ゆきこすん御あつこゝろ 荷
吾務くそひ引人ハらんころの 野水

やまゝのほを誘つてあつまひ月夜に 社団
とあつたつたつた町くちりて居る 芭蕉
二の尾くを誘つてあつたつた町水
襟もさじつたつたつたつた 芭蕉
のりあひ簾遠歌あつたつたつた 芭蕉
いそそ恨もさつたつたつたつた 芭蕉
ぬす人の記念の松れ吹あつたつた 芭蕉
あつたつた宗紙は名を付く水 社団

たつた

三

望ぬ見て無程あそびの心何處寄り
冬より春までいふの唐首 吟水
志らくと碎りくると人の骨う何 杜國
鳥賊いふもの國にうらむの 亦又
あふれこれ謎もとらう 秋も 野も
秋水一斗一とらうくも夜そ 芭蕉
日東の赤子白う坊く自をいひて 重臣
中へく不程なるも心琵琶抄 荷う

うしの夜とあつぬるれ夕と秋と 芭蕉
算へ 歎の奥をいふと 兼 村金
わいのわいあふと 兼 村金
うふといふれと 兼 村金
綾いふと 兼 村金
廊下と藤ののけと 兼 村金

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including words like "The first of the month" and "The second of the month".

あつきの壯年

あつきのあつきを振る

塾水

あつきのあつきを振る

あつきのあつきを振る 食 杜國

あつきのあつきを振る 芭蕉

あつきのあつきを振る 荷守

あつきのあつきを振る 重五

あつきのあつきを振る 正平

るこもり深きもの回際わたりて 杜園
奥のこはらうまの夜只なまをたかく 禁水
床もろくく流しんをこわす男 為り
縁さゆきけ此恨このうわし くら
口かこ癒をこらさる地うらまよ 時水
明りそうこ心まにさぐさあまこ とき
か三ちくく益くらあなうく 地 芭蕉
月夢くまのれ牡丹 ぬす人 杜園

魂あふのがわがやどに習はく とき
あひくくまひ地産切町 為り
物もあまらまや蚊のひのま 杜園
よみあいらねをまのハ ゆま 時水
櫛くこに餌をゆらゆらあまのこ とき
うらまを起らん床端くあま 芭蕉
障あつく梢を標れ帯さめ 時水
三線がらん不破のせま 人 芭蕉

冬

六

るすころ矢落ておらる基と云ひ芭蕉
祢と云くのとらと云 七十 杜國
奉りあひの草まうとまうらめあひを文
ひのの傘カサれ下コあわとらに 荷
蓮ハス池と踏フミの子コ遊ユふ夕ユフ中ナカ多タ 杜國
まどにまつら 荷カサ塚ヤサをもとと云 芭蕉
月ツキとまうら唐物カラモノの燈トウは朱シユ松マツて 荷
意イとぬとぬの臨リン濟ジをもまひ 芭蕉

秋アキ掃ハルるル虚ナラくクなナとくトクと云ひ芭蕉
君キミの實ミつツつツおオヤヤ らラらラり 芭蕉
後ノチよりヨリ現イマををひヒらラまマにニ 芭蕉
花ハナとわを典ス侍シの房フの由ユ依イ の 杜國
こコこコ此コノ花ハナ鸚イン鷗ウ尾ビのノれレまマいイふフ 芭蕉
しシとトいイのノこコこコ越エのノ福フク活カツめメ 芭蕉

芭蕉

二

くえをひく事僅く

十歩

清く英く月くわある露の心 杜國

こわのゆきりし水の心あつし 重五

齒原の露をを初猶人共く負也 野水

心の門をばりあきあき 芭蕉

馬糞搔あかき風のちのよ 荷弓

茶北湯者おしむ時人のあは 正平

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "Linnæum".

捨しふるを柴舟長くのみつるに時水
晦日とさしひく刀膏多し年一
雪の和風孤國の笠免つりま荷
襟しるる雄の片袖をさくをさ
あらし人も持たぬ棺と吾もさくをさ
芥子のぬくく名とさるに禪一杜玉
三日月の東を暗く後の群 薫
輝瀟うけく琴人よと 者妙あ

烹煎日たぬやうしてとどと放る 杜國
群よら本念佛 藪をぬきつる 翁
あけすき灯籠さくしに起倦く 野水
あらしの川も夜風の帯し 市又
あらし飛たすあ花たさるし入 翁
うのちとさるしあもあらしとさる

かふ波はくあゝ火燧赤を
とくふまをくせ

重五

炭賣れをのりまゝを黒のり免
ひも(き)ね花を鏡磨寒荷兮
花舞馬骨の赤おろく喰之(お)杜國
鶴(り)る(ま)ま(れ)月(う)す(る)糸(糸)野水
の(ち)り(ぬ)ぬ(ぬ)秋(の)瓶(に)酒(を)を(る)白(芭蕉
花(穢)る(る)さ(さ)市(く)振(り)る(る)羽(笠)

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

賀茂川や胡麻千代糸の徽を
いそぐらの尊なる山一りか
おみふと布操哥りわりの
うみをたるとちかぬ越る三平元カネ村國
於らけくくわらうの鶯は離るる
尖とりの火熾おとく人と見れば
門守の翁に家の子のく寝た
血刀く次月の傍に

旁りて本郷の籬七川
あゆみ納豆をくくながる
とくはく泣橋の徽とよそに
僧とのいそ敷冬を春
白燕帰るぬ水くおと流る
宣言がくく釵と鏡
ハ十年と三分る童母りて
かきくらすそむる七夕のすく

冬の日

止

村國

村國

田家眺望

雲月や鶴カウのイツク々あゝのゐそ 荷カウ

冬此物日さるあゝれりわやわ 芭蕉

樗檜山家の体よ本れ茶湯 重五

ひまどるうしれ塩とあれた 杜國

青まぬし具足く月のうすく 羽笠

酌カウもろ童カウ茶切カウく 埜水

秋のころ猿ね連歌いものりくせき
淋くもれ多し留守の寺 待方
麻として椿れたの落る音 杜國
茶の系遊花のちる風の香 守玄
雉追に烏帽子れ女又三十 碧水
庭より木芳化らるるの落衣 碧雲
おのりよ山橋くはらるるん 荷分
麻うわとつふ舟の集 ぬいせき

秋のころ

十四

江とをく獨禾菴とせな成捨く 飛又
家月出く身をそかあうり 杜國
きよの衣帯より落るるを拂 碧雲
箆輿ゆる波木瓦のふあは 碧水
骨をたたくくゆきく 洞つらうのち 芭蕉
乞食は養とともふ志の先 待方
泥のくは屋と引鯉を捨るるく 杜玉
所幸く進むるれみきり 守玄

冬

十五

もにてる幸此小角豆の花けり
萱をよまらるに炭團はく白羽豆
芥子のまじれ小坊交りておむれ
おむれくすのみきく蓮は實さ
志のまじり銀曇のく月のあ
霧とくく風やうのまじり杜園
物柄より屋根やうおきく片麻
豆腐つりて母さん喪り入
お水

之改る草此後を破ぬへ
伏り本帳の落るおまじり
つら物と男猫はうん捨てて
おのまじりすれ雪をまじり
水干とまじりの聖やう
山茶花白ふ笠れこり
お水

追加

いづれもよもは雨りしとての教 お筆

樽火しあめりあはるの松 造り

さくさく下志に焚きとやばんと 守り

檜まじく文を扇のしり 社國

報し蛤かりし月 海 芭蕉

ひらりし橋をさすの 笠阜山 禁水



江南名 珠碩 家いひことを道し

是より將多きを酒を命 むむ

あはれ或を大樽は造ら く江湖をわ

礼やいづる ゆえにも異あり

ほたる恵子 あしと用ふ

はつりく おぼやとちる

あつてけ ちる臨る醒て

日月陽秋 はらけの

か乃園ちり郭公も、つらたさごと
かき昔知人も、んえきあつて皆風雅
乃藻思をいつと志きと是いつれ
やころりあして乾坤の外なる正を
花のよきを云く毎日けつよをころり入

元禄三六月

越智 越人

花見

翁

木影をゆまけも鶴を梅の都
西日乃とつれとさくも氣りり
藤人乃風あさけ言さるる
なごも習とぬき刀於ヒキハタ鞞
月待く假所内裏の司石
粉白つくる松うたやわさ
水 碩 翁 曲水 珎碩

鞍置る三歳駒は秋のまへ
夕あきさまのくくく 霞の雨 碩 翁
へ迎に筑後乃涌湯は夕あき
中にも筑のいれさるた 山伏 水 碩 翁
ゆの事を唯一まえさるしりり
かろきおのころまきほろりり
物おもふまよもの吟をさるれ
月乃は秋乃 秋乃ととと露 碩 翁
水 碩 翁

秋風はる船をいさる波の音 水
馬ゆくくくく 白子の松 翁
ふ秋積る乃を盡け一丈田 碩
巡礼死ぬる乃のまをるふ 水
何よのまを城の現をあらる 翁
又まをるのまをくく 碩
四羅くくく けいさるけいさる 水
熊の母をみくくと泣きあはる 翁

子来う紀新宮守の頑ま
酒でもけたたれあはぬ
双六乃目をのそくまて善
假れ持佛よむ子念仏
中くよ土間よ持たる桑
一函名を置たらなむもの
将経くしぬ酒乃おき
舟長くよぬぼる月
水 頑 翁 水 頑 翁 水 頑

花蔭あまのすまひん枯く
唯四方りる草庵けろ
一貫は錢しつりやま
醫者乃わらむる飲ぬふ
花咲けり苦野あふる
蛇りさるまの山中
水 頑 翁 水 頑 翁 水 頑

翁 十二
珍頑 十二

曲水十二

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

珎碩

いろく乃々をむつーやまのま
くされて埜たら差はさわぬ
翁

蝙蝠乃のやまつをさうて
路通

かひ竜乃とをさうて
今

は京蘇の字を、ますに今く
碩

親子あらしく月ま抱らふ
今

秋のふき官もろを、世移ひあ
さむらうれてい、ころく女侍
うつり香乃形骸を首よひさあせ
小六うさむいー市ちかたつ侍
鮎釣乃ちいさく思ゆる川の端
念佛してたむむらつらさ
くーらほし茶もぐれとま本此等
庄撃く里乃大よむわさされ
全 碩 全 通 全 碩 全 通

旅婆飛と人乃姫つれく通
花まきあひよ月ハ彫夜全
志不のさ守海の下を和自り碩
生鯛あ、？ 浦さうまよ全
け村のこ廣さふ醫者ちあふりり荷
お久らんをけいそのまらあさ全
かきうさる、女紙退庵もせあさ全
まゝはちす酒乃侍あさ全 人

な、ゆゑある疾乃ら力をきくひらき
斎妻ま白くり 山々の胸中
うやんらん 墨乃らつれの月影
まごころもつ子のこころ裸出
免つり ぬきぬきとまごころ
文珠の初めにも 盤持の思恋
ふれぬ威ふふぬきひり 不味憎
何ともきぬよとある 弱柳
人 与 人 与 人 与 人 与

志乃小娘のたうさありて糸を
まふふらうと顔を見ぬあゝと
汗の香をかえそ衣とやめあし
志まゝに雨をうちあひて
つれづれなり又百人を照らす
まごころもたもたなる様
今 今 人 今 今 今 今

珠九

一

活通八

荷与十

越人八

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 越人八 and 荷与十.

城下

野徑

鉄炮乃遠音に昇る外月夜

砂の小麦乃瘦て〜〜〜

雨凡よ守町の小貝拾つて

なまぬる一川 餅モラひ〜〜

碁いさ〜〜二人志〜〜

秋の菖蒲花物そ〜〜

里東

泥土

乙州

怒誰

弥碩

夕陽花の細まに花をくれて 筆
 目の中へ花をく 見事ながらある 野徑
 夕小も又川を流すをく 里東
 顔乃花の 一生のいざ 泥土
 馬の石部を流すをく 乙別
 一里を流す 山乃下前 怒誰
 見事なまて 山をく定由等しを 泥土
 花れをく 洞雨の 里東

雪舟よ高城の梅女に寄るに 野徑
 花歩に つあく 下百を流す 乙別
 月花よ 山をく 山をく 珍碩
 若菜をく 乃流す 早蕨 怒誰
 くらをく 乃流す 乃流す 里東
 中をく 乃流す 乃流す 珍碩
 乃みたなり 乃流す 乃流す 乙別
 古をく 乃流す 乃流す 野徑

時くを百姓まゝと為帽子
 配亦まじりて供御乃蛤
 多也かまひぬ出買者位やん
 連も力も皆と度仍なり
 加凡乃大罽寺繩子喰速
 虫乃こゝろに用叶へり
 糊剛こゝろに用叶へり
 台迎歩の海の菜食喰物
 怒誰
 泥土
 野徑
 里東

肴後乃嗽セキはゆささ
 四十を老たさうかき
 髪を世に梳乃梳を海草
 醉を細糸よあけ吹き
 牧村乃花ハる葉よあき
 田方片隅又苗乃少り
 里東
 珠碩
 乙州
 野徑
 怒誰
 泥土

野徑六
 里東六

新秋乃清前よちよと増え流
 及肩
 月長れが滅乃志乃成り
 野池
 常乃まきと整りて鳥都
 二嘴
 香乃やうあるかますこの塵
 乙所
 初花よ雛の事指し居なくへ
 珠石
 人のそこよ意そあつまらる
 里東
 内倉乃香に吹そこあひく笛の
 探志
 寐よた起そけはの鳥啼
 岩多

秋入乃中若りく月より
 正秀
 中の上京をんゆもやよむ
 及肩
 蓋よ蓋鳥羽の町をけ今年来
 野徑
 雀をさあよ 籠乃むく史と
 二嘴
 うすはる日おんみらよとちおお池
 乙所
 袴のしあゝぬ声のむくのぬれ
 珠碩
 海へまよ本綿給の祢すしん
 里東
 撰のあをれとてまよあけの
 探志

暗からまゝ茶籠乃下をよき匂
 糖子を呼ぶとぬまわりは
 いまもいさる種一筋に糖糸
 多る波かゆる鯉棚乃秋
 はくくや切筋の残は風吹
 なが乃序もものぬ月
 冷おゝ味のつくとそは娘川也
 標押—うらな次よおくおる

昌房
 正秀
 及肩
 野徑
 二嘯
 乙列
 珍碩
 里東

月をぬく尻毛のうそをわきあけ
 こころをかくことさねと侍
 なまふふ自滅秘ちて縁にけ
 縄をなめる寺廿らと次
 花乃比屋敷の日待よそはこゝで
 さうらよねの獅子のまん

標志
 昌房
 正秀
 及肩
 野徑
 二嘯

乙列 四
 珍碩 全

里東四

探志全

冒房全

正秀全

及肩全

野徑全

二嘯全

田野

正秀

曠道や苗代時乃角大師

ゆきさきまふむ野一氣乃顔 珠碩

は浦ふとのわやえい鳴一まの元 全

かまのえたの一ま門口乃文字 秀

月歌又利休乃家を白鼻の意 全

度一芽をさくさくさるゝあり 碩

虫を皆つて獲くは鳴やうと
片足くしの木履くらぬる
誓文を百もふりておとるおとる
おとるおとるおとるおとる
頃廣いおとるおとるおとる
瓶乃おとるおとるおとる
月氷る降走り空の銀河
骨理子おとるおとるおとる

秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩

了ぬゆき大脇指をあらわして
獨ある子も^{キヤホ}鶏と替りぬ
江戸酒を花吹雪に忘れり
あいの乃山 弾丸乃入る
雲雀 啼里を^{ニヤコヒ}厭^{ニヤコヒ}異^{ニヤコヒ}な^{ニヤコヒ}な^{ニヤコヒ}
火を吹く子も 禅門の祖父
本堂ハおとる荒壁乃くら
羅綾紗袷志^{ニヤコヒ}おとる

秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩

歯を痛入り髪を結ぶ中
 藤垣乃窓より紙鳩を挟き
 口上果ぬいよとすめ時宜
 多小やりの小判を穿き袴
 秋入節の肥後ちり隈本
 幾日後も信じて月見る役者
 寸布子いさるおきやり
 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀

河山は元めくや吃らしく
 呼あまらやも猫をゆす
 多紀は小人所乃雨あらし
 や一日の楓木の芽崩立
 菱花は雪路拂つるきあり
 水野は一なる場にさゆる
 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀 碩 秀

正秀 十九
 珠碩 十七

寺町二系

井筒屋庄兵衛様

Handwritten text in cursive Japanese (sōsho) style, appearing as a list or account. The text is faint and difficult to decipher, but seems to contain several lines of entries.

Handwritten notes on a small paper fragment, including the characters "24" and "11月".

